

平成21年4月26日

## 会 告

### 『年報戦略研究』第6号における投稿原稿書き換え問題について

戦略研究学会 会長 原田 保

本年3月発行の本学会機関誌『年報戦略研究』第6号の編集過程において、投稿原稿が執筆者に無断で書き換えられている事実が判明しました。戦略研究学会は、事態を重大なものと判断し、調査委員会を設置して調査を実施しました。その調査結果は理事会に報告され、同時に関係者の処分が決定されましたのでお知らせします。

#### 1 調査結果

- ① 書き換えは、「論文」「書評」「文献紹介」などの多くの分野で見られた。
- ② 執筆者校正終了後の再校の時点で、大幅な書き換えが施されていた。
- ③ 書き換えを実際に行ったのは、編集責任者の石津朋之氏の指示を受けた2名の編集担当者である。

#### 2 理事会の見解

理事会は、3月7日、この件について石津氏に説明を求めたところ、同氏は、「年報のクオリティを維持するための修正であり、問題はなく、修正したものを執筆者に戻すべきと思うが、手間がかかるので、編集委員が平仄をそろえたほうが早いと判断した」と釈明しました。その一方で、理事会は、執筆者校正終了後の書き換えが明白な著作権侵害行為にあたりと判断し、以下のように決定しました。

3月7日に開催された理事会において、石津氏は、本件の責任をとって役職・理事を辞任しました。なお理事会は、4月18日、理事の総意をもって、会則第6条4項の規定により石津氏に対して「会員資格の停止」の処分を致しました。

また、3月7日の理事会において、杉之尾宜生氏の理事・事務局長辞任の申し出を受理致しました。

実際に書き換えを行った中島浩貴理事・永末聡理事については、調査委員会による聴取の結果、石津氏の強圧的な影響のもとでの行為であったことを勘案し、4月18日の理事会において、理事を辞任する旨の申し出を受理することとしました。

本件については、当該原稿の執筆者の方々に深くおわび申し上げます。また、これを契機に、戦略研究学会は、編集委員会の体制、学会運営のあり方を抜本的に見直し、このような不祥事が再発することのないよう努めてまいります。なにとぞご理解のほどをお願い申し上げます。